

独自のチラシ及び農業高校・大学と連携した「見える化」実証を通じたみどり戦略の周知

拠点独自でチラシを作成し、市町村庁舎、道の駅、JA直売所等でみどり戦略を周知。農業高校、生産者等を対象に啓発活動を実践し、見える化ラベルの普及推進。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略(温室効果ガス削減の「見える化」実証事業)

○ きっかけ・背景、課題の把握

みどり戦略の一般消費者の認知度が低いと実感。
また、県内に「見える化」実証事業に取り組む農業者等が不在。

○ 取組の内容

拠点独自で簡易なみどり戦略のチラシを作成し、農業イベント等での配布、市町村庁舎、道の駅及びJAの直売所等に設置を依頼。

農業高校は環境を意識した教育活動や、GAP等の進展で生産履歴を記録していることから、農業高校10校に「見える化」実証事業への参加を喚起。有機農産物を栽培、販売する生産者団体等との意見交換時に実証事業への参加を喚起。農業高校には、みどり戦略の出前授業を実施。

○ 効果・成果、今後の方向性

農業イベント(10月)のアンケート結果で、みどり戦略の認知度が約2割であったことから、引き続き、各種地域イベントへの参加や消費者、学生へのPR活動に取り組み認知度の向上を図る。

当拠点の働きかけにより、1農業高校、1大学、1生産者が「見える化」実証事業に参加。「水稻栽培」で星2つを取得した農業高校の学生からは「今回の学びを活かした農産物の栽培に取り組みたい。」との感想や「にんじん」の温室効果ガス削減で星3つを取得した生産者からは『見える化』ラベルにより付加価値がアピールでき、売上の向上につながった」と高評価。



イベント、道の駅等に周知チラシを設置

農業高校で栽培した「お米」が★2つを獲得

